

現代ロシア語の所有表現

宗像 江里子

キーワード: 現代ロシア語、所有形容詞、属格

要旨

現代ロシア語における連体修飾による所有表現には、主に名詞の属格によるものと名詞を基底にもつ形容詞によるものがある。ここでは、所有形容詞以外の名詞を基底にもつ形容詞、属格、そして人称代名詞の所有形を考えることによって、所有形容詞が人称代名詞の所有形とともに一つのクラスをなしていることを示していく。

1. 形容詞と所有形容詞 (possessive adjectives, PA)

ロシア語における所有形容詞は、人名や親族の呼び名およびその愛称から派生する形容詞である。主に語根の名詞が表す人物の所有を表し、その点において名詞の属格と同じ働きをするこの形容詞は、性質形容詞などのほかの形容詞とは異なるさまざまな性質をもつ。形態的な特徴としては、語尾が **-ov** または **-in** であるものが所有形容詞、それ以外の語尾のものは所有形容詞とは区別する。

ロシア語における所有形容詞は、名詞に接尾辞がついて作られ、修飾語となって被修飾語の名詞の性・数・格に一致する。接尾辞には二種類あり、接尾辞 **-ov** は男性の第一変化の名詞に、**-in** は女性名詞と男性名詞の第二変化のものに規則的につく。ロシア語における形容詞は一般に、連体修飾語にも述語にもなる長語尾と、述語にだけなる短語尾がある。長語尾は常に名詞の性・数・格に一致するが、短語尾は性・数にだけ一致する。ところが、所有形容詞は修飾語にしかならないにもかかわらず短語尾形で、名詞と形容詞の活用が混じった活用をする。

- (1) a. *tjotin* (PA) 'aunt's' < *tjotja*
 b. *Varvarina* (PA < *Varvara*) *koška* 'Barbara's cat'

- c. *dom menja(gen.)
house of.me

形態的に人称代名詞の所有形を二つに区別し、形容詞的なものを一人称単数形をとって **moj** 型、不変化のものを三人称男性／中性形をとって **ego** 型とよぶ。

人称代名詞の属格と所有形とは、普通名詞の属格が果たす機能のうち、所有の部分だけを所有形が受け持ち、それ以外の部分は属格が受け持っている。これは、人名を表す名詞には所有形容詞があつて、所有の部分を受け持つことができることとよく似ているが、所有形容詞の方は属格と所有形容詞のどちらでも使えるのに対し、人称代名詞の場合は属格と所有形とは相補分布をなしている。

3. 三人称代名詞の所有形と属格

所有形 **ego** 型は **moj** 型とは異なり、被修飾語に一致して変化することがない。**ego** 型に形容詞的な一致がみられないことから、所有形容詞と比較する上で **ego** 型を **moj** 型と同じグループにまとめず、その形態が代名詞の属格とまったく同じであることから、**ego** 型が属格の一部であると仮定する。

3. 1. 位置

属格は名詞を修飾するときには原則としてその語の後ろにつくのに対し、人称代名詞の所有形は普通名詞の前につく。この位置の違いは属格と所有形を分ける一つの理由である。

- (5) a. Eta kniga ego(possessive pronoun).
this book (is) his
- b. Eto ego(possessive pronoun) kniga
this (is) his book

- | | | | |
|----|-----------|-----------|-------------|
| c. | Eta | kniga | brata(gen). |
| | this | book (is) | of.brother |
| d. | Eto | kniga | brata(gen). |
| | this (is) | book | of.brother |

名詞の属格の文である c, d は、名詞を修飾している属格がその名詞の後ろにつくため、属格が修飾語なのか述語なのか、イントネーションの違いやポーズがあったとしても区別しにくい。

一方人称代名詞の所有形は名詞の前について修飾するため、修飾語か述語かの区別がつく。人称代名詞の所有形が属格であるとするならば、次のように言える；

- (6) 名詞句を三人称代名詞が修飾すると、その代名詞は属格になると同時に名詞句の前に来る。

3. 2. 前置詞

前置詞の補語になるとき、三人称代名詞はその格にかかわらず語頭に n- がついた形になる。動詞の補語になるときなどは n- はつかない。

- (7) a. dlja nego (gen, n+ego)
for him
- b. o nej (prep, n+ej)
about her

前置詞の補語になるときにこの様な変化を受ける語はほかにはない。人称代名詞の所有形も、前置詞の後ろに位置する場合不変化である。

- (8) a. dlja ego brata (gen.)
for his brother
- b. o ejo sestre (prep.)
about her sister

(8)も(9)も、前置詞と ego、ejo が隣り合っていることにはかわりはない。名詞の変化形である属格は n- がつき、人称代名詞の所有形にはつかないというのが従来の両者の違いである。しかし、どちらの例も同じ属格であると考えれば、次のように言える；

(9) 三人称代名詞が前置詞の補語に単独でなるとき、語頭に n-がついた形になる。三人称単数代名詞の属格がより大きな名詞句の構成素であるとき、n-はつかない。

moj 型は形容詞的であり、同じように人称代名詞の所有形として区分されているものの ego 型のほうは形容詞的ではない。これを人称代名詞の属格であると考えれば、語順と前置詞との関係に関して条件をつけることによって、一般的な属格の表す意味の範囲内にうまくおさまることになる。普通名詞の属格の働きに対して、人称代名詞は一人称と二人称では所有形容詞と属格が、三人称では属格がそれにあたる、と考えるのがもっとも簡潔である。

4. 形容詞的所有形と所有形容詞

moj 型所有形は、所有形容詞と同じような性質をもっている。つまり、後ろに来る名詞に性／数／格において一致すること、所有者が人間であること、人称代名詞の先行詞になることなどである。

4. 1. 先行詞

所有形容詞は人称代名詞の先行詞となる。人称代名詞の所有形に置き換えて同様の文を作ると、次のように所有形容詞と人称代名詞の所有形との平行な関係が現れる。

- (10) a. Eto Natašina(PA, fem.) kniga(fem.)
 this (is) Natasha's book
- b. Eto moja(possessive pronoun, fem.) kniga(fem.)
 this (is) my book
- (11) a. Ja kupil Natašinu(PA) košku;
 I bought Natasha's cat
- ona umerla nedelju nazad.
 she died a week ago.
- b. Ja videl vašu(possessive pronoun) mašinu.
 I saw your car
- Gde vy byli?
 where you were

所有形容詞は形容詞によって修飾されない。修飾の必要がある場合には、したがって同じ名詞の属格を用いることになる。

- (12) a. mamin (PA) /mamy (gen.) dom(masc.)
 'mama's house'
- b. tvoej (gen. fem.) *mamin (PA) / mamy (gen.) dom
 'your mama's house'

(12)の b. では、属格を用いた表現の方は人称代名詞の所有形 *tvoej* が修飾しているのは名詞 *mama* の属格 *mamy* であるが、所有形容詞は *tvoej* によって修飾されることはない。

4. 2. 動作名詞

ロシア語において、動作名詞は動詞と同じ様に主語や目的語をもつことができる。その場合主語や目的語は普通名詞の属格形で表されるが、所有形容詞をもつ名詞は属格のかわりに所有形容詞を用いることができる。

(13) Sašin (PA, nom)/ Saši (gen.) portret 'Sasha's portrait'

属格も所有形容詞も主語にも目的語にもなりうるが、そのバランスは均等ではない。所有形容詞と属格が同時に一つの名詞を修飾すると、所有形容詞が主語、属格が目的語になる。

(14) a. bojazn' Saši (gen.) 'fear of Sasha'

b. Sašina (PA) bojazn' 'Sasha's fear'

(15) 'Sasha's fear of papa'

a. *Saši (gen.) bojazn' papy (gen.)

b. Sašina (PA) bojazn' papy (gen.)

c. *Sašina (PA) bojazn' papina (PA)

(16) 'papa's fear of Sasha'

a. *Sašina (PA) bojazn' papina (PA)

b. papina (PA) bojazn' Saši (gen.)

c. *Saši (gen.) bojazn' papy (gen.)

人称代名詞の所有形も所有形容詞や属格と同様、動作名詞を修飾して動作者的な意味と被動作者的な意味の両方にとることができる。

(17) *tvoj* (possessive pronoun, nom.) *portret*
'your portrait'

人称代名詞の所有形は主語にも目的語にもなれるが、主語になることが多い。(19)の例では人称代名詞の所有形が「恐怖」という名詞を修飾しているが、主語にとられたほうが普通である。

(18) *tvoja* (possessive pronoun) *bojazn'*
'your fear'

(19) 'Sasha's fear of you'

- a. *Sašina* (PA) *bojazn' tebj* (gen.)
- b. **Sašina* (PA) *bojazn' tvoja*(possessive pronoun)
- c. **Saši* (gen.) *bojazn' tebj* (gen.)

(20) 'your fear of Sasha'

- a. **Sašina* (PA) *bojazn' tvoja* (possessive pronoun)
- b. *tvoja* (possessive pronoun) *bojazn' Saši* (gen.)
- c. **tebj* (gen.) *bojazn' Saši* (gen.)

「自身」という意味の代名詞 *sam* を付け加えると、属格ではなんの問題もないが、所有形容詞を用いることはできない。

(21) a. *Sašin (PA, nom.) portret samoj (gen.)

b. portret samoj (gen.) Saši (gen.)

'Sasha's portrait by / of herself'

人称代名詞の所有形は動作名詞の主語／目的語にはなれるが、「自身」という意味の代名詞 **sam** をともなうことはできない。(21a)と同様に、(22)の人称代名詞の所有形の例も、**samogo (gen.)**と格が不一致である。

(22) a. *Sašin (PA, nom.) portret samogo (gen.)

"Sasha's portrait by herself"

b. *tvoj (possessive pronoun, nom.) portret

samogo (gen.)

"your portrait by yourself"

4. 3. 数詞句

ロシア語の数詞のなかで5以上の数詞は、修飾する名詞が主格／対格のときにはその名詞とそれにかかる形容詞を属格に変えるという性質がある。名詞が斜格であるときには全体が斜格になるが、主格／対格を要求されるような環境では、数詞のみが主格／対格でその後ろの名詞・形容詞は属格になる。NP 全体が主格／対格のとき、形容詞が数詞よりも前にある場合、性質形容詞の場合は複数属格になるが、定代名詞や述語にならない形容詞は複数主格／対格になる。

(23) a. Eti (nom. pl.) pjat' dobryx (gen. pl.) košek (gen. pl.)

these five good cats

b. dobryx (gen. pl.) pjat' butylok (gen. pl.)

good five bottles

- (24) a. Sašiny (PA, nom. pl.) pjat' košek (gen. pl.)
 Sasha's five cats
- b. moi (nom. pl.) pjat' košek (gen. pl.)
 my five cats

所有形容詞は人称代名詞の所有形やその他の述語にならない形容詞と同様に、名詞が主格／対格を要求される環境において数詞の前にあるときには主格／対格になり、数詞の影響を受けて属格になることはない。

5. 結論

ここまでに調べた所有形容詞と属格、人称代名詞の所有形の共通点／相違点を形容詞も交えて次の表にまとめる。所有形容詞が、人称代名詞の所有形とほぼ同じ性質をもち、形容詞とは異なる点が多いことがわかる。

	属格	所有形容詞	人称代名詞所有形	形容詞
名詞の性・数・格に一致	×	○	○	○
人称代名詞の先行詞になる	○	○	○	×
関係代名詞の先行詞になる	○	×	/	×
動作名詞の主語・目的語になる	○	○	○	×
代名詞 sam と同一指示	○	×	×	×
数詞の前で数詞の格に一致	/	○	○	×

所有形容詞と人称代名詞の所有形がひとつのグループをなすということがこの表からも明らかになる。この両者はその意味内容がともに親族や一・二人称という高い **animacy** を示している。所有形容詞の属するグループを設定することによって、ロシア語の名詞類に **animacy** によるより細かい区別が存在するという仮定ができる。この区別がロシア語の中のほかの現象において一般化できるのかが今後の研究課題である。

参考文献

- Akademija nauk SSSR. (1980). *Russkaja Grammatika*. Tom1. 269-271, 540-572. Moskva: Nauka.
- Anderson, Steven, R. (1982). Where's morphology? *Linguistic Inquiry* 13. 571-612.
- Comrie, B. (1976). The syntax of action nominals: Across language study. *Lingua* 40. 177-201.
- Comrie, B., Stone, G., and Polinsky, M. (1996). *The Russian language in the 20th century*.
- Corbett, Greville, G. (1987). The morphology/syntax interface: Evidence from possessive adjectives in Slavonic. *Language* 63. 299-345.
- . (1995). Slavonic closest approach to Suffixaufnahme: the possessive adjective. In Plank, F. (ed.) *Double case: agreement by Suffixaufnahme*. 265-282.
- Cubberley, P. (1994). *Handbook of Russian affixes*. Slavica Publishers, Inc.
- Huntley, D. (1993). Old Church Slavonic. In Comrie, B. and Corbett, Greville, G. (eds.) *The Slavonic languages*. 125-187.
- Jakobson, Roman. (1984). Morphological Observations on Slavic Declension. In Waugh, L. and Halle, M. (eds.) *Russian and Slavic Grammar*. Mouton Publishers. 105-134.
- Plank, F. (1990). Suffix copying as a mirror-image phenomenon. *Linguistics*. 28. 1039 - 1045.
- Stone, G. (1993). Sorbian. In Comrie, B. and Corbett, Greville, G. (eds.) *The Slavonic languages*. 533-592.